

令和6年度 第1回宮崎県学校教育計画懇話会  
議事概要（各委員から出された意見）

日 時：令和6年7月1日（月）午後1時30分から午後3時30分

場 所：教育委員会室

委 員：12名

長鶴美佐子（座長）	黒木貴（副座長）	榎木田朱美
片野坂 千鶴子	中村 智洋	黒木 健二
山下 恵子	長友 美紀（欠席）	今城 真美
出水 悌二	三輪 充子	森山 慎作

【地域の高校について】

・少子化の流れを抜本的に解決できるとは思えないため、エリア内で学ぶことの魅力を提供できるコンテンツを充実することも一つの考え方ではないだろうか。

・地域ならではの学校の特色は残してほしい。

・学校が廃校になるということは、卒業生や地域にとっては大きな損失であり、廃校はできる限りない方向性でお願いしたい。

・保護者も経済的な視点も含めて、地域に目を向けている部分もある。その上で、生徒の学びを保障するためにも、できる限り学校を残してほしいという思いがある。

・他県では小中／中高一貫校を増やす取組も見られており、学びの継続性を意識することも重要ではないか。

・県としての最重要課題は少子化だと感じている。また、定員充足率の低いエリアと人口減少の自治体はリンクしていると思われる。10年後の本県の人口構成を見据えて、県立高校の維持も議論する必要があるだろう（学校経営や経済的コストの視点から）。

・地域から学校がなくなることが、地域そのものの持続性に影響を与えることも認識しており、その両面から学校の統廃合について考えていくべきだと感じる。

・定員については、データに基づいて見直す議論があると納得感が得られると感じている。

・少子化の中でも教員数を確保しながら手厚い指導体制を確保するよう取り組んでほしい。

・小規模校のメリットをどう生かすかが、これからのポイントになるだろう。

・学区制がなくなったことが地域の学校の定員未充足の原因の1つだと感じている。

・定員内不合格についても問題視すべきであり、定員見直しの議論とともに押さえておかなければならないだろう。

### 【学科等の方向性について】

- ・既存の枠組みをどう生かして、再編するかが重要だと考えている。
- ・普通科の学びの在り方について、多様性を意識した取組が重要ではないか。
- ・大学入試も変革している中で、自分のもつ経験や知見を織り交ぜて、論述やディスカッション等で表現する力が重要ではないか（民間でも同様の視点で採用を進めている）。
- ・これまでの取組とその成果をデータに基づいてニーズを把握し、しっかりと学科等の在り方を議論することが重要ではないか。そのために、地域や社会のニーズを把握する場をもつことも大切だと感じる。
- ・芸術教育の観点が必要だと感じており、そういったニーズをもった生徒に対する学科等もあっていいのではないか。
- ・生徒が自分の在り様を全力で表現できるような学科があるといいと感じている。
- ・学校間の連携による取組があってもいいのではないか。
- ・（定員を満たす見込みの少ない1学年1学級のための産業系学科においては）そもそもの40人定員の見直しや、他県事例のような産業系学科のミックスがあってもよいのではないか。

### 【今後の県立高校の在り方について】

- ・企業にスペースを貸し出し、地域や企業が学校の中に入っていきような仕組みもあっていいのではないか。
- ・全国の高等特別支援学校では、地域開放型の取組を行っている事例もある（学校施設内にカフェを併設、福祉サービスの提供等）。
- ・幼稚園教育において、園を開放して地域づくりの取組を行っている事例もある。
- ・昨今では通信教育で学ぶ生徒が生き生きとしている実感があるため、県立高校でもそのような学び方を充実させる視点もあっていいのではないか。
- ・ICT活用が必然であり、積極的に活用すべきだと考えるため、県内の通信制課程の実態もデータとして示してほしい。
- ・総合探究の取組は普通科の魅力づくりになったと感じている。これからはデジタル教育を積極的に取り入れていくことが重要ではないか。
- ・子供たちが夢を描き、挑戦できるようになるためには、大人が豊かさを奪っているのかもしれない。その中で、飯野高校の取組が1つのモデルとなって、新しい価値を創造できる学校がたくさん生まれることを願っている。

・ 高校生が参加するイベントでは、学校の垣根を超えて高めあうような時間を日々のカリキュラムの中で、全ての高校の生徒が実現できるようになればいいと感じている。

・ VUCA<sup>※</sup>時代に入り、デジタル化が加速した中で、加えてGXの取組も始まっている。このように、先が読めない時代だからこそ、主体性を尊重した教育を進めてほしい。

※VUCAとは、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧《あいまい》性）という四つの単語の頭文字を並べたもので、予測が難しく変化が激しい社会や経済情勢を表す言葉。